



教会報ほんじょ

〒130-0011 東京都墨田区石原 4-37-2
TEL : 03-3623-6753 FAX : 03-5610-1732
https://www.catholic-honjyo-church.org

INDEX

- 「清明」
主任司祭 パウロ 豊島 治
- 「司牧評議会からのお知らせ」
- その他
- 「写真で見る 聖週間」

「清明」

主任司祭 パウロ 豊島 治

主のご復活おめでとうございます。併せて

四月の挨拶を申し上げます。

今年の聖週間は私の手術明けということでも少し動きを抑えたミサの流れとしました。頭部の神経にかかわる箇所へのオペということ、術後しばらく禁じられるのは「歯の食いしばり」でした。この二週間、痛みを感じた時は

- ・ 電球交換で腕を伸ばすと 痛む
 - ・ 考え事をして 痛む
 - ・ 災害報道を聞いて 痛む
 - ・ 原稿作成していると 痛む（今）
- 日常で歯を食いしばるほど緊張していたのかと気づかされました。

古代教会では復活の主日から復活節第二主日までの八日間、新しく信者になった人は白い衣をまとっていました。この白い衣は復活節第二主日に脱ぐこととなっていたため、この主日を「白衣の主日（ドミニカ イン アルブス）」と呼ぶ習慣が生まれました。この名称は一九六〇年代の第二バチカン公会議の前は『ローマ・ミサ典礼書』に残っていましたが、公会議後は用いられなくなりました。また、二〇〇〇年五月五日には教皇庁典礼秘跡省から、復活節第二主日に「神のいつくしみ」という

名称を加えるとする教令が発表されました。この教令は次のように述べています。

「現代において、キリスト信者は世界の至る所で、典礼の中で、とりわけ神の愛に満ちた寛容さがとくに輝き出る超越の神秘の祭儀において、神のいつくしみを賛美することを願っている。この願いに応えて、教皇ヨハネ・パウロ二世は、『ローマ・ミサ典礼書』の「復活節第二主日」の後に、今後、「または神のいつくしみの主日」という名称を加えることを決定された」。これを受けて、日本の教会では二〇〇三年から、復活節第二主日に「神のいつくしみの主日」という名称を加えています。

神のいつくしみの主日は毎年同じ福音箇所です（ヨハネ20・19-31）。

『すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手とわき腹とお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。」（後略）』

が近いこと。イエスを見捨てて逃げたことへの良心の呵責。イエスから叱責されるかもしれない。その真中にイエスは現れ「あなた方に平和があるように」と呼びかけます。

新年度はじめから緊張する出来事がありました。台湾を中心に被害がありましたが、テロや戦争、脅迫など否応なしに緊張してまいります。祈りをささげると同時に、この影響は自分にどのようにくるのだろうかという不安もあります。

イエスは「平和があるように」とおっしゃった後、手と脇腹の傷を弟子たちに見せます。それは、死んだイエスと同一人物であることの証明ということ。そのことによってイエスが生きていたことの喜びになります。そしてもう一つ、人に最も響く愛を示されたのです。人にとって自分のために痛みを差し出すという姿は愛の証です。

弟子はイエスが生きていたという事実だけでなく、弟子がイエスの愛に触れたからこそ、喜んだと感じたのでしよう。

今様々な困難の中で傷ついている人の傷は、真の平和と救いへ向かって再び立ち上がり、歩みなさいという励ましです。弟子たちがつないできた信仰によって生きる私たちは新しいキリストの復活の恵みのうちに、心を向けていきましょう。